

特集「教育とコンピュータ」の編集にあたって

角田 博保^{1,a)}

「情報」教育に関する6回目にあたる特集「教育とコンピュータ」を組ませていただいた。対象は、情報教育の情報科学・工学的・教育学的見地からの抽象・設計・評価、初等中等高等教育・企業の情報人材育成教育などの情報教育における目標・方法論・理論・実践例・評価とその手法、情報教育教材、各種教育支援ツール、e-Learning, CMS, LMS, 情報教育の評価手法などに関するものとし、広い範囲で論文を募集した。

投稿された論文は、対象は学校（初等・中等・高等）教育から企業内教育まで多岐にわたり、内容は、情報科学の観点から教育を論ずるもの、教育学の観点から情報科学・情報技術の教育方法を論ずるもの、「情報」教育のカリキュラム・教材・システム環境を論ずるもの、広範囲の教育の情報化を論ずるもの、情報教育の評価手法を論ずるもの、個別事例や実践例を報告するものなど、多彩であった。

投稿論文数は33編あり、採録された論文は8編であった。採録率は約24%である。投稿数、採録率とも昨年と同じであった。研究会にて論文を良くするための研究論文セッションを催した点、論文書き方チュートリアルを開いた点、コンピュータと教育研究会と教育学習支援情報システム研究会とが連携している点、および、2回目照会制度を取り入れた点が幾分か寄与しているものと思われる。33編の投稿のうち、条件付き採録になったものが11編であった。そのうち2回照会を行った論文が3編ありいずれも採録となったことから、2回照会することは有益であることが認識される。

採録された論文は、「情報教育」、「教育支援」、「学習支援」に分けて整理している。「情報教育」では、ゲームを用いた一般情報教育の授業手法を提案する1編、コンピュータサイエンスアンプラグドに関連した2編がある。

「教育支援」では、多肢選択問題の難易度推定方法を提案・評価する1編、オンラインロールプレイ演習の統合環境を提案する1編がある。

「学習支援」では、デジタル遊具を指向したe-Learning向けのユーザインタフェースを提案する1編、オブジェクト指向モデリング教育を支援するシステムを設計・評価

する1編、遠隔学習に対応した1編がある。

最後に、本特集号を出版する上であらゆる段階で労をいとわず作業を勧めていただいた高岡詠子幹事を始めとする編集委員、厳しいスケジュールの中で丁寧にも公平に査読をしていただいた匿名の査読者、スケジュール管理をはじめ適切な支援をしていただいた学会担当者の方々に感謝の意を表します。

「教育とコンピュータ」特集号編集委員会

- 編集長
角田博保（電気通信大学）
- 幹事
高岡詠子（上智大学）
- 編集委員（五十音順）
井上 仁（九州大学）、上田真由美（流通科学大学）、大即洋子（清和大学）、奥村晴彦（三重大学）、梶田将司（京都大学）、加藤直樹（東京学芸大学）、金子敬一（東京農工大学）、兼宗 進（大阪電気通信大学）、神沼靖子（本学会フェロー）、川合 慧（放送大学）、未代誠仁（桜美林大学）、久野 靖（筑波大学）、竹村治雄（大阪大学）、立田ルミ（獨協大学）、長 慎也（明星大学）、中西通雄（大阪工業大学）、中森眞理雄（東京農工大学）、中山泰一（電気通信大学）、長瀧 寛之（岡山大学）、西田知博（大阪学院大学）、樋山淳雄（東京学芸大学）、坂東宏和（ポトス株式会社）、松浦敏雄（大阪市立大学）、山之上卓（鹿児島大学）、李 元揆（高麗大学）、和田 勉（長野大学）、渡辺博芳（帝京大学）

¹ 電気通信大学
The University of Electro-Communications, Chofu, Tokyo
182-8585, Japan

a) kokuda@cs.uec.ac.jp